



# 多文化共生としての

# 舞臺芸術

第1回

## 現代的演出

講師 平田 栄一郎 (慶應義塾大学文学部教授)

演出家の社会的意義は共生社会の幕開けと密接に関わっています。ヨーロッパ演劇界に著名な演出家が登場し始めた19世紀末から20世紀初頭は、多様な人々が共に暮らす大衆社会が出現し、電信電話などのメディアコミュニケーション時代が到来し、肉眼では見えないものを映し出すレントゲン技術が発明された時代でした。現実世界が多様化・複雑化したことに的確に答えるべくして、演劇界でも演出家という職分が必要になりました。演出家はまた19世紀末に始まった映画と同様、俳優との共同作業を行う点において映画監督と似ていますが、いくつかの点において大きく異なる点があります。本セミナーではヨーロッパ演劇史を踏まえながら、舞台芸術における演出の必要性と意義について解説します。



Profile

平田 栄一郎

演劇学・ドイツ演劇研究。1997年慶應義塾大学文学研究科博士課程満期退学後、1998年から2000年までベルリン・フンボルト大学に在籍。博士(文学)。慶應義塾大学准教授を経て2012年より現職。主な著書:『ドラマトゥルク』(三元社)、『在と不在のパラドックス——日欧の現代演劇論』(三元社)、『文化を問ひ直す——舞台芸術の視座から』(共編著、彩流社)、『Theater in Japan』(共編著、Theater der Zeit社)、『ニーチェ 三部作』(翻訳、論創社)、『バルコニーの情景』(翻訳、論創社)、『パフォーマンスの美学』(共訳書、論創社)、『ポストドラマ演劇』(共訳書、同学社)。

## 2021年4月26日(月)18:00~19:30

### Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語: 日本語
- 参加費: 無料
- 事前申し込みが必要です。(本学学生優先。先着受付順)
- 参加ご希望の方は、4月23日(金)17:00(日本時間)までに、右の二次元バーコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。
- ホームページからも登録できます。



[http://www.tufs.ac.jp/event/2021/210406\\_1.html](http://www.tufs.ac.jp/event/2021/210406_1.html)

- 問い合わせ先: [nukyoko@tufs.ac.jp](mailto:nukyoko@tufs.ac.jp) (沼野恭子)

予告 多文化教育プロジェクト 連続セミナー

- 第2回 「脚本の読み方」杉山剛志(ベトナム国立劇場芸術監督)
- 第3回 「演出」未定
- 第4回 「字幕」未定
- 第5回 「ミュージカル」高橋知伽江(脚本家、翻訳家)
- 第6回 「舞踊」未定
- 第7回 「日本の古典演劇」未定
- 第8回 「日本の現代演劇」内野儀(学習院女子大学教授)

主催: 総合文化研究所 / 共催: 語劇支援室